



# 町の話題



関田円形分水工

## ほ場整備やダムの役割を学びました 美郷町水環境学習会

8月3日に美郷町水環境学習会（町土地改良区連絡協議会主催・鈴木博則会長）が開かれ、町内の小学生親子38名が参加しました。土地改良区の職員から説明を受けながら、大畑地区ほ場整備の工事現場や金沢ダムなどの土地改良施設を見学し、ほ場整備の必要性やダムの役割などを学びました。当日は照りつける太陽に気温がみるみる上昇し、関田円形分水工では流れる水に手や足をつけて涼む子どもたちの姿が見られました。

## 楽しみながら英語に触れ合いました 美郷町小学校学習交流 英語セミナー

町内全小学校の5・6年生と教員を対象にした英語セミナーが8月4日、5日の両日、千屋小学校と仙南東小学校を会場にそれぞれ開かれました。参加した児童たちは、講師と一緒に手拍子をしながら英語の歌を歌ったり、英語でカルタ取りをするなど、楽しみながら英語に触れ合い、他校の児童と交流を深めました。

学習指導要領の改訂により小学5・6年生の外国語活動が平成23年度から必修化されています。町教育委員会では児童だけでなく、教員にも外国語活動を体験し情報交換することで学校での指導に活かしてもらおうと平成21年度からこのセミナーを実施しています。



▲カルタ取り（英語で呼ばれた色と同じカードを取り合い、カードの数を競いました）



▲謝辞を述べる鈴木湧平さん

## 自分たちを育ててくれたたくさんの“絆”に感謝を 平成23年度美郷町成人式

8月15日に美郷町公民館で平成23年度美郷町成人式が行われ、平成2年4月2日から平成3年4月1日生まれの新成人252名の門出を祝いました。式典では新成人代表の福原裕一郎さん、藤岡貴郁さん、藤井恵理さんに松田町長から成人証書が授与され、中学校時代の恩師から自分の教え子に向けてそれぞれお祝いの言葉が贈られました。成人者代表謝辞では鈴木湧平さんが登壇し、「自覚と責任を持ち、どんなときも前を向いて自らの道を切り開いていきます」と、節目を迎えた抱負を語りました。式典には成人式実行委員会（佐藤亮実行委員長）が制作に当たり「絆～過去から未来へ～」と題した記念映像が上映され、お遊戯会や小学校の運動会、中学校の部活動風景などがスクリーンに映し出されると、新成人たちは歓声を上げながら画面に見入っていました。

## 高齢者の交通事故撲滅を誓い合いました 高齢者交通安全大会

高齢者の交通事故を防ごうと8月18日に美郷町公民館で高齢者交通安全大会（美郷地区交通安全協会主催・戸沢信一会長）が行われました。大会では大仙警察署の田中久好交通課長による講話が行われたほか、衝突事故の衝撃を体験できるコーナーが設けられました。実際に衝突時の衝撃を体験した皆さんは、シートベルト着用の大切さを身を持って感じた様子でした。



衝突体験の様子

## 地域活性化を目指して ものづくり地域戦略会議in秋田

8月23日に役場庁舎で「ものづくり地域戦略会議in秋田」が開かれ、町内外の経済・企業関係者ら約50名が出席しました。

会議では経済産業省サービス政策課の前田泰宏課長が「懐かしい未来へ」と題して講演し、地域活性化の方策について考えを述べました。前田課長は、東日本大震災により被災した地域の復興のあり方について触れ、「想定外の出来事が起きたときには自らが当事者となる覚悟が必要」と話し、ものづくりの現場においても「明確なビジョンを持って当事者として取り組む」ことが大切だと参加者に訴えました。



先日、県内某紙に郷土資料館（旧本堂分校）の解体に関する記事が掲載されました。読んで「おやっ」と思ったのが、「こういうとらえ方のみでは読者に誤解を与えてしまうな」ということです。そのため、今回はこの件の情報を提示し、誤解を避けたいと思います。

美郷の将来を考え、町が役場庁舎など公共施設の再編に取り組んでいることは、皆さんご存知のとおりです。その中には、



▲北東北インターハイ自転車競技の開会式であいさつを述べる松田町長（8月8日）



### 「判断の根幹」

美郷町長 松田 知己

町内に3ヶ所ある資料館も含まれています。当初計画では、郷土資料の展示は学友館に集約する計画としていました。

しかしその後、学校統合に伴う空き校舎の活用検討の中で、空き校舎を郷土資料の展示施設として活用した方が良いとの住民委員の意見もあり、再検討し現在の千畑南小校舎に概ね集約する計画としたところです。なお、公共施設再編計画の見直しに当たっては、町議会と議論を重ね、パブリックコメント等により町民各位からも見直し案への意見を求め、見直し計画を決定しております。一連の手続きの中で、千畑南小校舎を資料展示施設とすること、学友館の機能を一部移転すること、旧本堂分校を解体することなどに異論は寄せられておりません。

一方、旧本堂分校については築年数なども考慮し、建築専門家も入れた検討会で取り扱いを

検討してきました。その論点は3つです。建築物として文化的価値があるか、文化財収蔵施設として適切か、安全な公共施設として今後維持するにはどの程度経費が必要か、でした。結果は、移築時の改造で文化的価値は確実に損なわれていること、多湿環境への立地で文化財が痛みやすいこと、移築時の基礎工事や従前の管理の問題から安全性確保に多額の経費が必要などが分かりました。そのため、断腸の思いで将来の解体を判断しております。なお、千屋地区には坂本東嶽邸もあります。これも改修時の基礎工事ほかで難点がありました。東嶽翁の遺徳を偲ぶとともに千屋断層の資料展示など将来的なことを見据え、残すべき施設としてまずは3千6百万円程の経費でまもなく改修に着手します。

私たちの財源には限りがあります。その中で、「最大多数の最大幸福のために、残すべきは残しながら、決断すべきは決断して、町の未来を考える」ということが町の判断の根幹です。こうした町の姿勢に改めてご理解をお願いいたします。